
むくげの会・ゲストディ 山田貴夫さん

日時：2021年8月3日（火）午後7時～8時半

会場：ZOOM

ゲスト：山田貴夫さん

テーマ：「日立就職差別裁判の発端とその後」（仮題）

※山田さんは、1949年生まれ。朴鐘碩・日立就職差別裁判の中心人物のおひとりです。日立裁判は、1970年？山田さんら慶応大学ベ平連のメンバーが駅前で「入管法反対」のチラシをくばっていたときに、朴鐘碩さんが声をかけたことから始まっています。山田さんはその後、川崎市役所に就職し、外国人登録課で働きます。1980年代に各地で争われた裁判では、行政の立場ではなくて外国人の立場に立って証言されました。2005年には法政大学政治学研究科で修士論文「植民地主義克服の意義と現状」を書かれています。著書に『新在日韓国・朝鮮人読本：リラックスした関係を求めて』（梁泰昊と共著、2014年）、論文として、「指紋押捺拒否の闘いー自治体の窓口から」（『季刊三千里』33号、1983年2月）、「川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例」の制定経過と内容及び今後の課題」（『東アジア社会教育研究』25号、2020年）などを書かれています。日立裁判以降、多方面で活動されている山田さんですが、今回は日立裁判にテーマをしぼってお話をうかがいたいと思います。

●リスト

1. 佐野通夫
2. 飛田雄一